## 解の存在条件

連立一次方程式 Ax = b の解の存在条件について、階数を用いて議論することができる。

ref: 行列のヒミツがわ かる!使える!線形代数 講義 p110~111

まず、行基本変形によって得られる方程式の解は、元の方程式の解と同じであった。

そこで、次のように変形した拡大係数行列をもとに考えると、

この方程式の解が存在するのは、

$$b_{r+1}=\cdots=b_m=0$$

の場合のみであることをすでに考察した。

ここで、拡大係数行列  $\tilde{A}$  は A の右端に 1 列追加して得られるので、零行でない行の個数、すなわち階数を考えると、 $\operatorname{rank} \tilde{A}$  は  $\operatorname{rank} A$  と等しいか、1 だけ増えるかのどちらかである。

 $b_{r+1} = \cdots = b_m = 0$  の場合、 $rank \tilde{A}$  と rank A は一致する。



一方、 $b_{r+1},\ldots,b_m$  のうち、1 つでも 0 でないものがある場合は、拡大係数行列の右端の列に主成分が現れ、 $\operatorname{rank} \tilde{A}$  と  $\operatorname{rank} A$  は一致しない。



 $b_{r+1}, \ldots, b_m$  のうち、0 でないものが 2 つ以上ある場合も、さらに行基本変形を行うことで、右上の拡大係数行列と同じ形にできるので、

$$\operatorname{rank} \tilde{A} = \operatorname{rank} A + 1$$

となる。

以上の考察から、連立一次方程式 Ax = b の解が存在する条件は、

係数行列と拡大係数行列の階数が等しい



ことだといえる。

 $oldsymbol{\cdot}$  拡大係数行列と解の存在条件 A を  $m \times n$  型行列、 $oldsymbol{b} \in \mathbb{R}^m$  とする

$$\tilde{A} = (A \mid \boldsymbol{b})$$
 とおくとき、

$$\operatorname{rank}(\tilde{A}) = \operatorname{rank}(A) \Longleftrightarrow A\boldsymbol{x} = \boldsymbol{b}$$
 に解が存在する





[ Todo 1: ref: 行列と行列式の基礎 p31 (定理 1.5.1)]

 $^{*}$  解の存在条件の系 A を  $m \times n$  型行列とするとき、

 $\forall \boldsymbol{b} \in \mathbb{R}^m$ ,  $A\boldsymbol{x} = \boldsymbol{b}$  の解が存在する  $\iff$  rank(A) = m

## 証明



[ Todo 2: ref: 行列と行列式の基礎 p32 (定理 1.5.2, 1.5.3)]

## Zebra Notes

Туре	Number
todo	2